

ユネスコスクール

さいたま市立新開小学校 2012年承認

～人にやさしく 自然にやさしく～



令和4年6月29日 5年総合「だれもが暮らしやすい生活について考えよう」〈福祉〉 ～自分にできること～

盲導犬と生活をされている 井出 茂樹 様にご来校いただき、お話をうかがいました。



視覚障害者には、「目が見えない人」と「目がみえづらい人」がいて、全く目が見えない人は視覚障害者全体の約1割で、見えづらい人の方が多いそうです。見えづらい人がどのように見えているかについても、わかりやすく教えていただきました。



白杖についても種類や使い方を紹介していただきました。唯一、この杖で見つけられない障害物はおへそより高い障害物で、木の枝などにぶつかりそうな時には「危ない！」と声をかけてほしいことを教えていただきました。また、困っている人を見かけたら、勇気をもって「どうしましたか？」「お手伝いできることはありますか？」などと声をかけてほしいこと、視覚障害者のガイドの仕方は、肘か肩につかまって声をかけながら行うことなどを教えていただきました。「声をかけながら」というのがとても大切で、「歩きます」などの一言をかけることの大切さも実演を通してわかりやすく教えていただきました。目的地まで案内していただいた時も、「小学校に着きました。」で終わらずに、「校門の前ですけど、ここでいいですか？玄関まで行きましょうか？」と言っただけだと嬉しいことなど、気が付かないことがたくさんあることを知りました。お礼を言いたくても、黙って立ち去る人がいるので、立ち去る時にも声を出してほしいということでした。聞こえる声ではっきりと伝えることや、「段差があります」など、声に出してお伝えすることが親切であることがよくわかりました。

盲導犬の仕事は3つで『障害物を教える』『曲がり角を教える』『段差を教える』を実演して見せてくれました。



そして盲導犬を見かけたら、守ってほしいことが4つあるそうです。

- 1 触らない。
- 2 声をかけない。チョッチョッと口を鳴らすのもダメ。
- 3 食べ物、飲み物を勝手にあげない。
- 4 犬の目を見ない。

これらをやってしまうと仕事に集中できなくなり歩行の妨げになってしまうそうです。

ハーネスをつけている時は工作中なので触ってはいけないそうですが、家の中ではハーネスを外して盲導犬は自由に過ごしているそうです。今回、お別れの時に、特別にハーネスを外して、一人ずつ盲導犬ロンドに触らせてもらいました。やさしい目をしていて、とてもかわいかったです。

井出様との出会い、盲導犬ロンドとの出会いがいつまでも子どもたちの心に残って、これからの生活の中で役立ててもらえたらと思います。

